

こ あ い さ つ

皆様方におかれましては、平素から大変お世話になっており、改めて厚くお礼を申し上げます。

今年は、200年振りとなる天皇陛下の退位、改元が行われる我が国にとって、まさに歴史的な年となるので、日本そのものも新しく生まれ変わるのではないかと期待しているところです。

さて、早いもので、平成27年4月の統一地方選挙において、皆様のご支援により県政へ送り出していただき、4年と言う歳月が過ぎようとしております。

振り返ってみますと、平成28年には、天皇陛下が国民向けにビデオメッセージで退位の意向を示唆され、アメリカのオバマ大統領が現職の米大統領として初めて広島を訪問したのも印象的でした。平成29年には、ドナルド・トランプ氏が第45代アメリカ大統領に就任し、その言動がいろいろと物議を醸しているところです。そして昨年7月の西日本豪雨災害により、多くの人的被害や、家屋やインフラといった物的損害など、戦後最大級の被害がもたらされました。

福山市内においても被害が相次ぎ、30の河川で堤防の決壊や越水が発生して、約2千ヘクタールが浸水し、床上浸水が1,164棟、床下浸水が914棟にも及びました。このことを受け、県では発災直後の8月には「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」を立ち上げ、学識経験者等の有識者による議論を踏まえて、流域別の総合治水対策を取りまとめ、排水機場の新設やポンプの増設、河川改修、河川掘削等の対策を実施するなど、短期、中期、長期の対策に分け、計画的に行うこととしています。私といたしましても、国、県、福山市で協力・連携し、浸水被害を無くしていけるよう全力で取り組んでいく所存であります。

広島県議会2月定例会は、2月6日に開会し、27日間にわたる審議を経て、3月4日に閉会しました。

本定例会では、平成30年7月豪雨災害に係る取り組みはもちろんのこと、「中山間地域の進化論」「観光振興対策」「少子化対策」「市町村合併の総括と今後の支援」「健康寿命の延伸」「教育の在り方」などの県政が直面する重要な課題について論戦が交わされました。

なお、福山市関係の予算措置状況は、県政トピックスに掲載しておりますので、ご一読ください。

最後に、県議会議員としてのこの4年間を顧みますと、県議会最大会派の副会長を2年間務め、平成29年の6月からは、第107代副議長に就任し、県議会全体に目配りをしながら、円滑な議会運営に取り組むなど、数多くの貴重な経験をさせていただいた議会期でありました。

こうした経験は、私にとって大きな財産になると同時に、更なる飛躍への準備期間だったように思います。

今後とも、広島県の発展と活力ある福山市の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、皆様におかれましては、これまで以上のご支援を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。